

2015年6月3日（水）

フジサンケイビジネスアイ



■とみおか・けい
慶大環境情報卒。
1999年日本オラクル
入社。福岡のほか中
国・上海、タイ・バ
ンコクの拠点などで
勤務。2007年6月、
大学時代からの友
人、寺田親弘社長ら
とともにSansanを
創業し現職。神奈川
県出身。

S
a
n
s
a
n
取締役

富岡
圭さん

(39)

interview

——インターネットを使った企業向け名刺管理サービス「Sansan」が急速に伸びている

「導入企業は2年前まで1000社程度だったが、今年4月に3000社を超えた。利用者は名刺をスキャンしてネットで当社のデータセンターに情報を送信すれば、オペレーターが入力してデータベース(DB)化するので、名刺管理が便利になる。公開された人事情報を基に名刺情報を更新したり、同じ会社の社員が受け取った名刺を共有したりする機能もあり、常に最新の顧客情報を観ることができるのが強みだ。この点が支持されている」

——8月中旬をめどに外部連携用インターフェース(仲立ち)機能を無償で公開する狙いは

「この機能を利用するパートナー企業は、名刺情報を組み込んだ業務ソフトやサービスを開発できるようになる。Sansanのサービスが拡充し、名刺情報が社内のさまざまな業務の効率化に役立つ。サービス対象が広がると、1社当たりの利用者数は増え、売り上げ増加につながる。サービスの魅力が向上すれば、導入企業数も増える。現時点で、日本マイクロソフト、日本郵便など20社がパートナー企業に名乗りを上げている」

——想定する連携サービスの内容は

「例えば、日本郵便とのサービスの場合、SansanのDBを宛名の印字に活用し、はがきのデザインから投函、配達までを一括して依頼できるサービスを提供できる。営業支援システムを開発するパートナー企業なら、名刺を交換した顧客の情報を地図上にプロット(配置)し、近くの営業先を参照できるサービスも可能だ」

——経営目標は

「名刺のデジタル管理が当たり前になる社会を実現し、2017年までに導入企業数1万社を達成したい。現在、約20億円の売上高を50億円程度に引き上げる」

名刺デジタル管理 企業向け普及促進